

平成28年度 妙高市特別活動部 活動報告

部長 百目鬼 弘通

1 研究主題

一人一人の関わりを重視した望ましい人間関係づくりを育む特別活動の在り方
～集団づくり・仲間づくりをとおして～

2 研究の概要

妙高市では、小・中・特別支援学校の教職員で妙高市教育研究会を組織している。特別活動部会では、春の一斉研修の部会で、昨年度の研究主題を基本的に継続するとともに、研究主題に基づきながら集団づくりや仲間づくりの活動を自校での実践、研究に繋げていく方向性を確認した。

夏の一斉研修では、国立青少年教育振興機構の理事でもあり、国の教育行政と太いパイプをおもちの国立妙高青少年自然の家伊野所長様から教育課程部会特別活動WGの最新の資料をもとに、次期学習指導要領における特別活動について講義をいただいた。

特別活動では「なすことによって学ぶ」という考え方、「アクティブ・ラーニングの視点」が大切であり、体験学習法の理念を生かすことが有効な指導、支援につながるものと考えた。そこで秋の一斉研修では、野外教育が専門の信州大学瀧直也様から体験学習法のワークショップを行っていただいた。

2つ一斉研修の内容等について報告する。

3 研究の実際

(1) 夏の一斉研修

講師：国立妙高青少年自然の家 所長 伊野 亘 様

講義：次期学習指導要領における特別活動について

～中教審初等中等教育分科会教育課程部会特別活動WG検討内容から考えること～

○改訂の方向性「特別活動で育成する資質・能力」

- ・「知識・技能」：話し合いの仕方、合意形成の仕方、集団活動における役割分担
- ・「思考力・判断力・表現力等」：課題の把握→解決策の話し合い→合意形成・意思決定→実践、課題解決 [過程を大切に]
- ・「学びに向かう力・人間性等」：他者の価値観や個性の受容。助け合い、協力による人間関係づくり。

・特別活動で育成すべき資質・能力の視点

人間関係形成、社会参画、自己実現

(2) 秋の一斉研修

講師：信州大学教育学部 講師 瀧 直也 様

演習：特別活動に役立つ体験学習法ワークショップ

○体験学習法：子どもたちが主体的に考え、協力しながら解決策を見出せるような体験活動を基本とし、「ふりかえり」を大事にして、次の活動へとつないでいく。

[そこで、何が起こった、何を考えた…]

- ・コミュニケーション実践：「流れ星」「3人の家」「白クマくん」
- ・グループワーク実践：「枯れ葉を使って」→ ふりかえり



4 成果と課題

次期学習指導要領が示す特別活動の方向性や具体的な取組の内容を学ぶ機会となり、自校での実践、研究につながるものと期待している。また、特別活動で育成すべき資質・能力や集団づくり・仲間づくり等で体験学習法を活用した活動が促進されるようさらに研修を深めていきたい。

